

スカウトちば

SCOUT CHIBA

「スカウトちば」は、日本ボーイスカウト千葉県連盟の広報誌です。

Vol. 107

2025年11月30日発行

CONTENTS

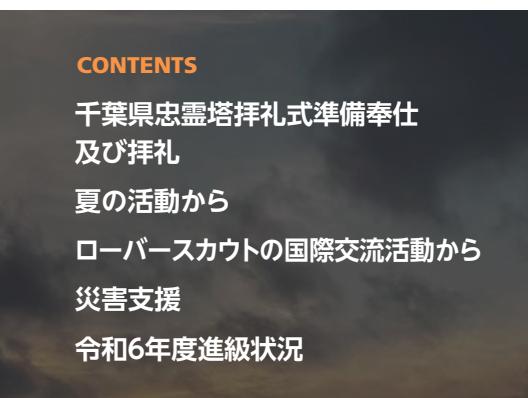
千葉県忠靈塔挙式準備奉仕
及び挙式

夏の活動から

ローバースカウトの国際交流活動から

災害支援

令和6年度進級状況



千葉県忠靈塔挙式準備奉仕及び挙式

千葉県忠靈塔挙式に参加して

おおとね地区 佐倉第2団 ベンチャースカウト隊 | 森 一航

8月15日、終戦記念日に開催されている千葉県忠靈塔挙式に初めて参加し、スカウトを代表し献花をさせていただきました。式典の厳かな雰囲気の中で、さきの戦争で尊い命を捧げられた多くの方々にたいし、自分なりの哀悼の意を表しました。忠靈塔の前に立つと、戦後80年の重みと、今の平和がたくさんの方々の犠牲の上に築かれていることを感じました。

献花の瞬間、普段は意識することの少ない「命の尊さ」や「平和の有難さ」に改めて気づかれ、また、僕たちが次の世代へ伝えていくべきことは、平和の大切さであると思いました。

今回の体験を通して、スカウトとしての活動の中にも「平和を願い、社会に貢献する」という精神を活かしていきたいです。忠靈塔の前で感じた思いを忘れず、日々の行動の中で平和を守る努力を続けていきたいと思います。

戦後80年

かわかぜ地区 我孫子第2団 ベンチャースカウト隊 | 浪川 風

今年、私は初めて千葉県忠靈塔挙式準備奉仕へ行きました。忠靈塔は写真で見たものよりもずっと大きく立派でした。この忠靈塔には、日清戦争以降の戦没者の名簿が納められており、来年には老朽化のため別の場所へ移転・整備されるそうです。

ニュースでは「戦後80年」という言葉をよく耳にしますが、正直なところ、私たちの世代には戦争という言葉があまり実感を伴いません。学校で映像を見たり教科書の資料を眺めたりしても、それがどれほど悲惨な出来事だったのかを想像するのは難しいです。しかし忠靈塔挙式で黙祷を捧げた時に、今の平和は多くの犠牲のもとで成り立っているということを強く感じることができました。戦争を知らない私たちだからこそ、平和について学び、悲しい出来事を二度と繰り返さないようにしていきたいです。

平和な毎日に感謝し、思いやりを忘れない生きていきたいと思います。

夏の活動から



新島と式根島の思い出

かわかぜ地区 流山第3団 ベンチャースカウト隊 | 堀之内 啓人

今年の夏、かわかぜ地区は、我孫子の隊と伊豆諸島の新島へ3泊4日のキャンプに行きました。イオンモール柏から竹芝港までの35kmは自転車を漕ぎ、港からはフェリーに乗りました。

特に印象的だったことは、隣の式根島にも行ったことです。登山をしていたら隊長から式根島への便があるとの連絡があり、急いで準備をして向かいました。式根島では、自転車で島中を巡ったり、海水浴を楽しんだりしました。行きたかった式根島に行けて、忘れられないひとときになりました。

他にもこのキャンプでは、新島の歴史に触れたり、特産品のくさやや寿司を食べたり、日の出を見たり、温泉に入ったり、とても充実した時間を過ごせました。

アクシデントもありましたが、声を掛け合い、隊長やローバーのバックアップもあったおかげで、無事みんな自転車で帰って来ることができました。このメンバーで行ったことで、最高のキャンプになりました。またみんなでキャンプに行ける日を楽しみにしています。

男鹿島キャンプ

うみかぜ地区 千葉第9団 ベンチャースカウト隊 | 村井 汐音

2024年のゴールデンウィークに、兵庫県にある「男鹿島(たんがしま)」という島で3泊4日のキャンプをしました。発端は、島に別荘を持っている隊長の知り合いがいて、その方が私たちにゴールデンウィークの間に庭を貸してくれるという話があったことです。

初めは驚いたし、いきなり島でキャンプができる技能も持っていないので考えましたが、滅多に経験できないことだと思い、そこに向けて訓練をすることにしました。ザックに積みやすい小さな机や椅子などの装備を用意したり、九十九里へ訓練キャンプをしたりしました。

そして、とうとうゴールデンウィークになりキャンプをしました。瀬戸内海に面している島で、海がとても透き通っていて綺麗でした。海で遊んだり、島をぐるりと一周探索したりしてキャンプを楽しみました。

4日間とも怪我なく元気に過ごせたのでよかったです。今回は同じ場所に留まりましたが、今後は、毎日移動して宿泊地を変える「移動キャンプ」もやってみたいと思いました。

カンダーシュテーク国際スカウトセンターで過ごした3ヶ月を振り返って

うみかぜ地区 千葉第18団 ローバースカウト隊 | 木谷 実里

2025年6月1日から9月1日までの3か月間、スイスにある世界スカウト機構が運営するカンダーシュテーク国際スカウトセンターにて、短期スタッフとして活動してまいりました。

この施設は、ベーデン-パウエル卿が「世界中のスカウトが一年中集い、交流できる場所をつくりたい」という夢のもと、1923年に設立されたものです。

センターは世界各国から集まったボランティアスタッフによって運営されており、この夏は約90人のスタッフが毎日およそ1,500人の

ゲストを迎えていました。私は週5日、キッチンにて食事の提供やショッピングの運営を行い、週2日の休日には山へハイキングに出かけたり、湖で泳いだりして過ごしました。

世界中から訪れた多くの若いスカウトたちがここで生涯忘れられない思い出をつくり、素晴らしい友人を得て、より広い視野と大きな夢を抱いて自分の国へ帰っていく姿を見て、スカウティングは世界に希望を生み出していると心から感じました。

3か月間寝食を共にし、苦楽を分かち合ったかけがえのないスタッフの仲間たち。これまで見たことのないほど美しいスイス・アルプスの山々。ここで得た新たな価値観、そして大きな愛や希望を胸に、これから的人生を歩んでいきます。



ローバースカウトの国際交流活動から



ムートで学ぶ、スカウトとの出会い

うみかぜ地区 千葉第18団 ローバースカウト隊 | 山田 佳樹

世界スカウトムートは、世界中のローバースカウトが集い交流する国際大会です。このたび第16回(ポルトガル開催)派遣に参加する機会をいただき、世界各地の仲間と活動を共にしました。大会前半はセルバ市で約50人と共同生活を送り、文化や価値観の違いを自然に受け入れ合うことを学びながら、スカウト同士の一体感を強く感じました。

インターナショナルフードナイトでは世界の料理をそれぞれが振る舞い、香りに引かれ多くの仲間が集まりました。

期間中の奉仕活動では介護施設での支援を行い、相手に寄り添う姿勢がいかに大切かを実感しました。日常の支えとなる行動を意識することが、眞の地域貢献につながるのだと感じております。

また、大会後半のメインキャンプでは、過去の大会で知り合った台湾や香港のスカウトや、地区交流でのヒューストンの仲間とも再会でき、友情がさらに深まりました。世界の仲間と築いた友情と経験を糧に、これからスカウト活動をより活性化していきたいです。

第16回世界スカウトムートに参加して思ったこと

おおとね地区 香取第1団 ローバースカウト隊 | 大原 慎一郎

私はこれまでスカウト活動を続けてきましたが、それは強い意志によるものというより、どちらかといえば惰性のようなものでした。しかし、同年代のスカウトの多くが国際派遣の経験を積む中で、自分がそうした経験を持っていないことに焦りを感じ、ムートへの参加を決意しました。

初めての海外で、しかも英語を話したことのなかった私は、英語をうまく話せず、相手が少し困惑した表情を見せたとき、申し訳なさと同時に強い悔しさを覚えました。

また、どんな料理でも箸を使って食べていることを不思議そうに見られ、自分にとって当たり前のことが海外では意外に映るのだと気づきました。こうした経験を通して、本当の日本の特徴というのは、日本の中にいる自分には見えにくく、外からの視点を通して初めて理解できるものが多いのだと実感しました。

最後に醤油という調味料はなんでもおいしくします。おいしくするというよりも日本人の舌に合わせるようになり、持っていくべきではなかった。

お世話になった石川県珠洲市への恩返し

～能登半島地震の災害支援活動を行って感じたこと～



なぎさ地区 浦安第2団 ローバースカウト隊 | 小林 里実

珠洲市は小6の時に初めて参加した第17回日本ジャンボリーの開催地でした。2024年1月1日に起きた能登半島地震、その後相次ぐ水害のニュースを日々目にしていて自分ができることはないかとずっと思っていました。

石川県災害ボランティアバンクに登録し、勇気を出し1人で飛び込みました。「スカウトは勇敢である」おきての一つを実践できたと思います。

作業分担は希望制で、自ら重労働である泥排除、水害がれきの撤去の方に手を挙げました。女性の中では私だけで、泥まみれになって作業をしました。それがきっかけでがれきの集積所に連れて行ってもらったところ、その集積所が「ジャンボリー」という名前がついている事を知りました。まさに日本ジャンボリーが行われた場所でした。以前自分自身がジャンボリーで行った場所が変わり果てていることは、テレビやネットのニュースでは知り得ることはできず、実際現地に行かないといわからないことでした。

また、若い人は仕事をするために金沢市の方に行ってしまい、帰ってこないので残っているのは高齢者ばかりになり、過疎化が進んでいる現状を知りました。1人ではわずかな力にしかならないので自分が見てきたものや、やってきたことを伝え、ボランティア参加者を増やして行くことの必要性を感じました。



令和6年度進級状況

富士スカウト章



小林 里実 浦安第2団

菊スカウト章



隼スカウト章



荻野 太一 浦安第2団

佐野 碧 流山第3団

船橋 瑛海 松戸第1団

新井 透 市川第8団

崎田 悠右 八千代第2団

中島 雄輝 浦安第2団

山田 真生 銚子第3団

嶋田 遥斗 流山第3団

高木 海惺 柏6第6団

田中 智貴 浦安第2団

田中 義悠 浦安第2団

遠藤 千春 浦安第2団

市川 嵩人 浦安第2団

齊藤 玲子 千葉第6団

佐藤 虎 千葉第6団

小林 奏太 船橋第14団

坂千代 楓 千葉第14団

安藤 恵み 我孫子第1団

佐藤 璃玖 流山第3団

村井 汐音 千葉第9団

三好 倫生 八千代第4団

松田 碧 柏第6団

品川 唯人 印西第1団

中谷 拓 市原第7団

北澤 獅苑 松戸第5団

【スカウトちばANNEX対応記事】

これらは、スカウトちばANNEXでご覧いただけます。
<https://www.scout-chiba.jp/members/annex/>



【発行者】

一般社団法人 日本ボーイスカウト千葉県連盟

〒260-0001 千葉市中央区都町2-1-12 千葉県都町合同庁舎4階
TEL.043-235-8070

運動拡充委員会 編集責任 山本 黙

詳細は、日本ボーイスカウト千葉県連盟ホームページをご覧ください <http://www.scout-chiba.jp>



お問合せは